

## 自由演技課目における難度の判断に関わるガイドライン

### 1. はじめに

自由演技課目における難度は、その他の技術点や芸術点と切り離して評価することはできない。演技の難度と技術性には密接な関係がある。運動項目実施にクオリティが欠けていれば、ライダーおよび／または馬の演技能力に不足があるとみなされる。その場合は難度の採点で、減点として考慮するべきである。

各レベルのジャッジペーパーにリストアップされている必須運動項目をライダーがすべて演技した場合に、自由演技の**基本要件**を達成できる。ライダーは次のようにして難度をあげ、演技のスコアを上げることができるが、技術的に正確に行った場合とする：

- 単独の運動、特に係数付きの運動を適正に繰り返すこと
- 単独の踏歩変換および連続踏歩変換の回数、あるいはピアッフェの運歩数など、運動に求められている最低限の要件を超えること。ただしやり過ぎないこと。
- ハーフパスを指定の角度より深い角度で行い、これに方向変換を組み合わせることも可能。
- ライン上での運動項目を蹄跡の内側、例えばクォーターライン（1/4）や中央線など馬場埒のサポートがないライン上で、あるいは角度をつけたり曲線上（例えば巻乗りや蛇乗り）で行うこと。
- 演技が一段と難しくなる位置を選んで運動項目をこなすこと：例えば馬場埒の正面部分で行ったり、外側へ向かう（観客の方へ向かうなど）ピルーエット。
- 求められている運動項目の組合せを明確に区切りながらも上手く表現していること（例えば、速歩でのハーフパスからパッサージュでのハーフパスに移行、二歩毎の連続踏歩変換にすぐ続けて歩毎の連続踏歩変換、およびその逆も同様）。
- 要求度が高く難しい移行を見せること（例えば停止から徐々にインパルジョンを高めることなくピアッフェあるいはパッサージュに入ること；常歩あるいは停止から直接、連続踏歩変換へ移行；伸長歩度から高度に収縮した運動へと顕著ではあるが、調和を保った移行：例えば伸長速歩からピアッフェ、あるいは伸長駈歩から駈歩での（ハーフ）ピルーエットまたはピアッフェ。
- 誇張することなく、片手に両手綱をもって運動項目や移行を行うこと。

よく計算されたリスクを踏まえての演技とは、難度がライダーと馬の潜在能力やトレーニングレベルに相応したものである場合に表現できるもの。挑戦ではあるが、技術的に正確な演技は、高水準な騎乗能力と馬のトレーニングを如実に証明するものである。一方、運動項目の実施で明らかなミスがあれば、ライダーが馬に対して過度の要求をした結果とも思われ、これはリスクの判断ミスであり、難度で減点しなければならない。

諸規程に記載されている通り、伝統的な馬場馬術を表現できていない場合は難度の減点で対応することが不可欠である。

## 2. 採点のガイドライン

「はじめに」で述べたことと、審判員へのガイドラインにおける説明に基づき、難度に与える点数の推奨指針は以下の通りである：

- 基本レベルで最低限の要求を満たしているだけであれば、大体は 6.0。
- 各々の標準課目レベルに応じて難度を上げた場合（難度の高い演技がみとめられた場合：JEF）は 7.0 以上。
- 難度の高い演技（よく計算されたリスクを踏まえた）が見られた運動項目については、各々その難度の高さに相応して点数を上げるべきである。